第２回
新美術公募展の在り方有識者会議

〈資料〉

日時　：　平成 31 年２月１日（金）10:00～12:00

場所　：　宮崎県立美術館 アートホール

宮崎県教育委員会

第２回 新美術公募展の在り方有識者会議

日時：平成３１年２月１日（金）
１０：００～１２：００
場所：宮崎県立美術館
アートホール

＜次第＞

※進行：生涯学習課

１	**開会**	（進行）	１０：００
２	**主催者あいさつ**	（教育次長）	１０：０１
３	**出席者紹介**	（事務局）	１０：０３
４	**協議**	（座長）	１０：０４
	説明（事務局）		１０：０５（１０分）
	事項１ **「めざす姿」について**		１０：１５（２５分）
	事項２ **「部門」について**		１０：４０（１０分）
	事項３ **「審査」について**		１０：５０（１０分）
	事項４ **「展示」について**		１１：００（１０分）
	事項５ **「人材育成・若手育成」について**		１１：１０（１０分）
	事項６ **「宮崎らしさ」について**		１１：２０（１５分）
	事項７ **「運営・その他」**		１１：３５（１０分）
	まとめ		１１：４５（１１分）
５	**主催者お礼**	（教育次長）	１１：５６
６	**諸連絡**	（事務局）	１１：５８
７	**閉会**	（進行）	１２：００

出席者名簿

1　委員

No.	区分	氏名	所属等	備考
1	学識経験者	石川 千佳子 ＜副座長＞	宮崎大学教育学部教授 県立美術館協議会委員	美術史
2		二宮　勝憲	県美術協会顧問、県立美術館協議会委員 元県美術展運営委員、宮日美展企画委員	絵画
3		岩切　裕敏	県書道協会顧問 県美展運営委員、宮日美展企画委員	書
4	美術館・美術文化団体等の有識者	原田　正俊	都城市立美術館副館長（学芸員） 県立美術館協議会委員	
5		青井　美保	高鍋町美術館学芸員	
6		川越　良一 ＜座長＞	県高等学校文化連盟会長 県立宮崎北高等学校校長	
7	各部門の有識者（美術作家）	大野　匠	宮崎大学教育学部准教授 県美展運営委員	彫刻
8		小河　孝浩	日本広告写真家協会正会員 県美展運営委員、宮日美展企画委員	写真　欠席
9		泰田　久史	宮崎学園短期大学教授 宮日美展企画委員	工芸
10		大岐 嘉二郎	都城泉ヶ丘高等学校教諭 県美展運営委員、宮日美展企画委員	映像 デザイン
11	出品者	河辺　光洋	宮日美展、県美展出品者 宮崎日大高等学校芸術学科教諭	絵画 デザイン
12		藤元　美月	宮日美展、県美展出品者 宮崎大学生	彫刻 絵画
13	行政	金子　文雄	県教育庁 教育次長（振興）	

2　オブザーバー

No.	所属	氏名	役職
1	宮崎日日新聞社	和田　雅実	常務取締役 業務局長
2		坂元　陽介	業務局　局次長兼事業部長
3		村橋　洋一	業務局　兼事業部次長
4	県総合政策部 みやざき文化振興課	野別　雄飛	文化担当主査

3　事務局

No.	所属	氏名	役職
1	県生涯学習課	後藤　克文	課長
2		森山　紀子	課長補佐（総括）
3		新 純一郎	課長補佐（指導）
4		向江　修一	社会・家庭教育担当リーダー（主幹）
5		黒木　徹郎	社会・家庭教育担当社会教育主事
6	県立美術館	飛田　　洋	館長
7		加塩　美昭	副館長
8		木村　幸久	学芸課長
9		横山　武司	総務課　総務担当リーダー（副主幹）
10		清　　俊一	学芸課　企画・普及担当リーダー（主幹）
11		清水　佳秀	学芸課　企画・普及担当　主査

「宮崎県美術展」と「宮日総合美術展」との統合による**「新美術公募展」**について

1　両公募展統合に至る経緯

昨年度、宮崎日日新聞社（以下、宮日）から県教育委員会に対して、宮日総合美術展（以下、宮日美展）の新聞社による単独開催を見直し、近年中に宮崎県美術展（以下、県美展）と統合の可能性を探れないかとの相談があった。

それを受けて、宮日と県立美術館、生涯学習課とで協議を進め、両公募展が抱える課題が解消でき、より魅力的で、時代にあった新しい公募展を目指して、両美術公募展の統合に向けて本格的に検討することとなった。

2　両公募展の現状、問題点・課題

○　本年度で県美展は 45 回、宮日美展は 70 回を数える。本県の 2 大美術公募展として親しまれてきた。

●　出品者数や出品点数の減少が両美術展ともここ数年続いている。

●　絵画、彫刻、工芸等の従来の部門では対応できないジャンルの創作活動を行う人が増えている。新しい出品者層の開拓のためにも、美術に対する新しい考え方、時代に即した募集内容の改革が必要である。

●　部門の種類や展示作品数の規模がほぼ同じで、入選者の約 7 割が重複する公募展が県内に 2 つ存在していることに対し、疑問の声がある。

●　県立美術館の企画展示室や県民ギャラリーを両美術展で約 3 か月間独占し、貸出枠を圧迫している。

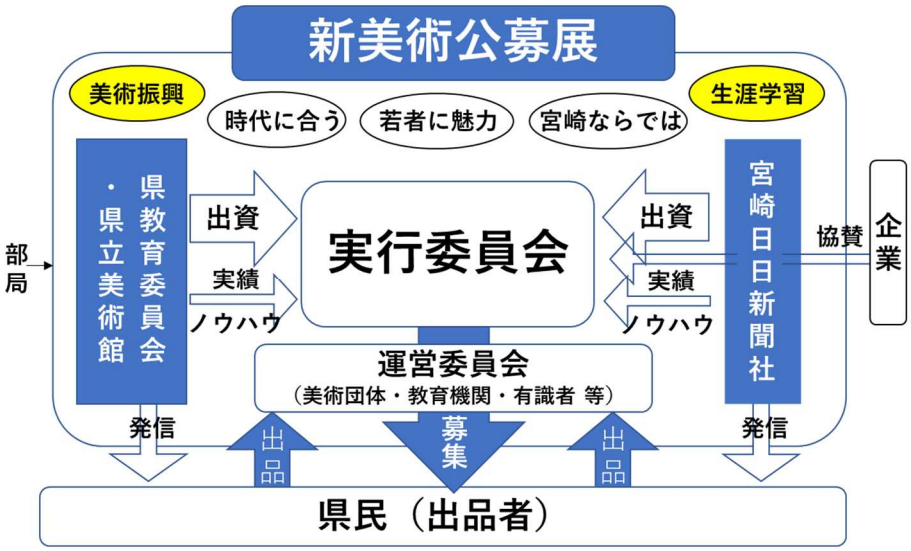
●　搬入受付、審査、展示、返却等に係る業務負担や経費負担が大きいため、今後、両美術展が同規模の公募展を継続していくことは厳しい状況にある。

2　統合のイメージ（案）

新美術公募展のコンセプト

美術の振興・生涯学習の充実につながる

時代に合った　若者に魅力ある　宮崎ならではの　美術公募展をめざします！



○　両公募展を発展的な形で統合し、再構築する。

○　運営は県と宮日による共同出資での実行委員会形式とする。

○　第 1 回の新美術公募展は、国民文化祭が本県で開催される 2020 年度（2021 年 3 月）を目標とする。

3　統合した場合に考えられるメリット・デメリット

○　新美術公募展のコンセプトを改善の視点と捉えることで、両公募展の課題解決につながるとともに、新美術公募展の充実を図ることができる。

○　経費や業務負担を削減した上で、運営面や広報面などにおいて、それぞれの強みやこれまでの経験・実績を生かすことで充実した公募展を展開できる。

○　全国的に県直営の公募展は少なく、県立美術館直営は本県のみ。メディアとの実行委員会方式での開催は、時代に即した運営方式となる。

●　宮日美展の「無鑑査制度」の取扱いや公募展出品の機会が 2 回から 1 回に減少すること。

4　今後のスケジュール案

平成 30 年度　新美術公募展の在り方に関する有識者会議（県民･専門家からの意見聴取）、基本方針の決定
平成 31 年度　準備委員会の設置、県民への告知
2020 年度　　実行委員会設置、運営委員会の設置、開催要項配布、第 1 回新美術公募展開催

「宮崎県美術展」と「宮日総合美術展」の概要

No. 項目	宮崎県美術展	宮日総合美術展
1 創設	1975年（S50）、H30で45回	1949年(S24)、「宮崎県展」としてスタート、県主催と誤解されないために1974年(S49)に本展覧会名に改名、2018年(H30)で70回
2 主催	県教委、県立美術館	宮崎日日新聞社
3 協賛	なし	日本通運宮崎支店の他、企業46社が協賛
4 会期	平成31年3月2日（土）～3月17日（日） 16日間（休館日なし）	平成30年10月27日（土）～11月11日（日） 14日間（休館日2日）
5 表彰式	平成31年3月3日（日）	平成30年11月4日（日）
6 会場	県立美術館	県立美術館
展覧会場	2階会場すべて（企画展示室、県民ギャラリー、彫刻展示室、アートフォーラム）	彫刻展示室を除く、2階会場すべて （貸し施設、有料）
7 入場料	大人300円、学生200円、小中高生無料	大人600円、高校生300円、小中学生無料
8 部門	絵画、彫刻、書、写真、工芸、デザイン、映像	絵画、彫刻、写真、書道、デザイン、 工芸、留学賞チャレンジ
9 賞	各部門別に大賞・特選・準特選・奨励賞	各部門に特選・奨励賞・入選・新人賞
賞金	大賞5万円・特選3万円・準特選1万円 ・奨励賞5千円	特選5万円・奨励賞2万円・絵画部門宮日賞の副賞に宮崎～パリの往復航空券（ペア券、ツアー申込可、帰国後に個展開催）、留学賞チャレンジ部門の入選者は「宮崎県美術海外留学賞」の候補者に
10 出品規定	高校生以上(県内在住・在学、出身者)	高校生以上(県内在住・在学、出身者)
11 出品点数	各部門とも１人２点まで	各部門とも１人２点まで
12 出品料	１点につき、一般3,000円　学生1,500円	１点につき、一般4,500円　学生2,000円、高校生1,000円
13 出品作品数 ／出品者数 ／入選点数	H29　1,151点／912名／556点 H28　1,144点／901名／543点 H27　1,190点／930名／563点 H26　1,232点／967名／560点 H25　1,270点／997名／565点	H30　1,085点／ 888名／458点 H29　1,007点／ 794名／407点 H28　1,111点／ 877名／447点 H27　1,121点／ 937名／436点 H26　1,127点／ 940名／457点 H25　1,168点／ 919名／462点
14 観覧者数	H27　4,473名 H29　4,223名　H26　4,862名 H28　4,221名　H25　5,046名	H30　4,732名　H27　5,804名 H29　4,859名　H26　5,170名 H28　5,782名　H25　6,157名
15 特徴	・入選率が高い ・生涯学習の場、特に高校生、高齢者の励みになっている	・同一部門特選3回で無鑑査、作家の目標、ステータスになっている ・新聞とwebの活用に優れている

※宮崎県美術展はH30年度予定、宮日総合美術展はH30年度実績

「第１回会議」における委員からの主な意見やアイデアのまとめ（事項１）

<table>
<tr><th colspan="2">事項</th><th>第１回会議における委員からの
主な意見やアイデア等</th><th>意見やアイデア等のメモ欄</th></tr>
<tr><td rowspan="5">１　めざす姿</td><td>①公募展の性格</td><td>・県美展的な「出品しやすい雰囲気、親しみやすさ、生涯学習的要素」を求めるのか、宮日美展的な「難しさやレベルの追求」を求めるのか。

・書は両公募展の性格の違いが明確になってきたので、折衷方法が課題

・県民には大きな変化。両公募展のいいところを合わせるのがスムーズでは。

・80 代、90 代、高齢者の顕彰、高齢者や生涯学習の視点を落とさずに。

・ベーシックな公募展か、ものすごい公募展になるのか、どちらかに決めておくべき。</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>②カテゴリーの設定</td><td>・絵画部門にカテゴリーを設定しては。
カテゴリーＡ（100 号クラス、宮日美展的、高難易度）
カテゴリーＢ（50 号クラス、県美展的、出品しやすい、初チャレンジ）</td></tr>
<tr><td>③他の文化事業との連携</td><td>・高文祭、宮日ジュニア展との組み合わせ、全世代的なものにしては。</td></tr>
<tr><td>④情報提示</td><td>・インターネット等で早めに規格を示して欲しい。

・過去の表彰作品をアーカイブ化し閲覧可能にして欲しい。ネット配信も新しい形だ。</td></tr>
<tr><td>⑤開催年</td><td>・年１回の開催がよい。

・2 年に 1 回の開催（ビエンナーレ形式、例えば②のＡとＢを隔年で開催）では、モチベーションが下がる。発表の機会が少なくなる。</td></tr>
</table>

「第１回会議」における委員からの主な意見やアイデアのまとめ（事項２）

<table>
<tr><th colspan="2">事項</th><th>第１回会議における委員からの
主な意見やアイデア等</th><th>意見やアイデア等のメモ欄</th></tr>
<tr><td rowspan="3">２
部門</td><td>①
部門の数・統合</td><td>・６部門を残してもらいたい。
・工芸と彫刻の単純な部門統合はやめて欲しい。
・規定上、現部門では出品できない人がどれくらいいるのか調査が必要。
・ジャンルをまとめて一括りに審査することには疑問が残る。
・裾野を広げるには竹細工、ちぎり絵も出品できるようにして欲しい。
・本県には出品先を補完できる工芸展がない。生涯学習の観点からも工芸部門は残して欲しい。
・デジタルアートやメディアアートは宮崎ではまだ少ない。現在の各部門でよい。
・遊べる要素は必要だが、県民にはベーシックな公募展の方がよい。</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>②
平面・立体</td><td>・平面、立体という大きな括りでは展示面は難しいが、合議が保障されれば新しいことができる、新しい視点が見える可能性がある。
・都城市美展は 60 回展で平面・立体とした。観覧者には好意的に受け取られている。（平成 30 年度で 5 年目になる）
・凹凸のある絵画等では、出品するジャンルを迷うことがある。</td></tr>
<tr><td>③
規定・部門の新設</td><td>・写真部門にスマホ部門を設定しては。
・グループでの制作が増えている。出品規定をグループ可にしては。
・何人かで出品できる体制も必要では。
・インスタレーションの出品は公募展には馴染まない。チャレンジギャラリー、アートボックス（ワンダーアートスペース）などでの支援が現実的。
・趣味で制作している人は新部門には出品しないと思う。</td></tr>
</table>

「第１回会議」における委員からの主な意見やアイデアのまとめ（事項３～４）

<table>
<tr><th colspan="2">事項</th><th>第１回会議における委員からの
主な意見やアイデア等</th><th>意見やアイデア等のメモ欄</th></tr>
<tr><td rowspan="3">３
審査</td><td rowspan="2">①
審査制・無審査制</td><td>・無審査制（アンデパンダン展）は面白いと思う。ネットで募って投票による上位者を決定しては。
　この場合は全国規模になる。
　企画書・テーマを設けて質を担保しては。</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>・審査制はあった方がよい。
・無審査制には反対。無審査制の市美展等もあり、すみ分けができている。
市美展等→県美展→宮日美展→全国規模の公募展という流れ、レベル枠も必要では。
・切磋琢磨、刺激になる審査制は残して欲しい。
・審査制は必要。モチベーションに関わる。目標になる。</td></tr>
<tr><td>②
審査員</td><td>・都城市立美術館では、しがらみの無いよう、作家ではなく評論家である。
・評論家にも専門がある。好き嫌いで審査して欲しくない。
・各分野の専門家を審査員として入れるべき。
・聞き取り調査したところ、有名な人気作家よりは、見る目が強い評論家や研究者に見て欲しいという意見が多かった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">４
展示</td><td>③
無鑑査制度</td><td>・無鑑査制度をなくすのは反対、それに代わるものが何等かの形で必要。
・２回目の特選から３回目まで、24 年間かかって無鑑査になった人もいる。出品者の励みになっている。</td></tr>
<tr><td>①他施設の活用</td><td>・文化公園内の芸術劇場や県立図書館を展示会場の一部としたり、美術館外スペースを活用した現代アート展示も可能では。</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>②各地域での展示</td><td>・椎葉や高千穂など、その土地の文化をテーマにした制作をし、現地の廃校を利用して展示しては。</td></tr>
</table>

「第１回会議」における委員からの主な意見やアイデアのまとめ（事項５）

事項		第１回会議における委員からの主な意見やアイデア等	意見やアイデア等のメモ欄
５　人材育成・若手育成	①経済的支援	・芸術系大学への進学の支援、奨学金制度を設定 ・公募展と大学の連携、将来性のある学生を大学へ送り込む等、大学等とのタイアップは必要 ・画材を提供しては。(例:ホルベインスカラシップ　20 名に 1 年間、総額 50 万円の画材を提供) ・東京での公募展出品に関わる出品料、運送費等の負担等を支援しては ・写真部門はレンタルのフレームを導入しては（高校生の負担を軽減） ・書部門では高校生は諸経費を部費で賄えるため出品が多い。大学生・20 代の出品を増やすためには、経済的なフォローが必要	
	②個展開催の機会提供	・県民ギャラリーを副賞としても、あの広いスペースでの個展を開催できる若手作家はいないのでは。	
	③出品作家のＰＲ	・美術手帖など、著名な広報誌(専門誌)での紹介	
	④海外、展覧会の視察等	・国内公募展視察（レポート提出が条件）に派遣しては。 ・総合的美術展であるにも関わらず、宮日美展のパリ賞など、絵画部門だけが優遇されるのは疑問である。	
	⑤高校生・若者	・高文連と連携を密にすべき。 ・高文祭は 50 号が上限である。若者は 50 号クラスだと出品しやすい。 ・高校生部門を創設しては。 ・高文祭ができて高校生の出品が減少した（都城市美展）。 ・今は様々な場所・方法で発表できる時代になっている。	

「第１回会議」における委員からの主な意見やアイデアのまとめ（事項６～７）

事項		第１回会議における委員からの主な意見やアイデア等	意見やアイデア等のメモ欄
６　宮崎ならでは	①賞	・宮日美展に倣い、協賛企業名の賞を出す。 ・応募規定上、全国にいる本県出身者をどう取り込むようにできるのか。	
	②瑛九賞（全国公募）	・瑛九賞設定ならば全国公募となる。 ・県外出品者については瑛九トリエンナーレのようなもので、第一線で活躍している人の作品を観てみたい。 ・普通の公募展に瑛九賞を入れるのは反対である。チャレンジ的な公募展ならば可。全国の同意を得られるまで時間を要するため熟考が必要 ・長期的な視点が必要	
７　運営・その他	①組織等	・運営委員に民間で若手を育成に携わっている人、障がいのある表現者の方々お持ちの事業者の方などを入れ、広い視点で運営委員会、実行委員会を組織して欲しい。 ・出品規定に縛られすぎないよう、受付に際して担当者が柔軟な対応を判断できるシステムが望ましい。	
	②展覧会名称	・宮日という社名は残すのか。	
	③告知	・2019 年 4 月に出す宮日美展開催要項に今回が最後になることを表記したい。	